

総務省国立研究開発法人審議会 宇宙航空研究開発機構部会（第3回）
（文部科学省国立研究開発法人審議会 宇宙航空研究開発機構部会（第2回）との合同開催）

1 日時 平成27年7月13日（月）15:00～17:00

2 場所 文部科学省 東館 13階会議室2及び会議室3

3 出席者

（1）委員（総務省側、敬称略）

梅比良 正弘（部会長）、水野 秀樹（部会長代理）（以上2名）

（2）専門委員（総務省側、敬称略）

入澤 雄太、末松 憲治、藤野 義之、藤本 正代（以上4名）

（3）委員（文部科学省側、敬称略）

高橋 德行（部会長）、古城 佳子（部会長代理）（以上2名）

（4）臨時委員（文部科学省側、敬称略）

白坂 成功、長辻 象平、永原 裕子、平野 正雄（以上4名）

（5）宇宙航空研究開発機構

川端理事、山浦理事、井澤執行役、武内技術参与、城野監事

（6）事務局（総務省）

山内宇宙通信政策課長、後藤宇宙通信政策課衛星開発推進官

（7）事務局（内閣府）

千原宇宙開発利用課長、奥野宇宙開発利用課企画官、

多賀谷宇宙開発利用課課長補佐

4 議題

（1）平成26年度業務実績評価の進め方について

（2）宇宙航空研究開発機構の平成26年度業務実績評価について

（3）宇宙航空研究開発機構からのヒアリング

（4）平成26年度財務諸表について

(5) 宇宙航空研究開発機構監事からの監査報告書説明

(6) その他

開 会

【高橋部会長】 それでは、定刻となりましたので、ただいまより総務省及び文部科学省JAXA部会を合同で開催いたします。

本日は、お忙しい中お集まりいただきましてまことにありがとうございます。本日は、総務省及び文部科学省合同でJAXAの業務実績等のヒアリングを行います。

なお、本日の議事進行につきましては、梅比良総務省JAXA部会長と相談の上、私が進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、本日の部会は公開とさせていただきます。

初めに、本日の会議の出席者につきまして、総務省JAXA部会では、委員3名中2名が出席し、定足数を満たしていることを御報告いたします。また、文部科学省JAXA部会では、委員及び臨時委員のうち、議事に関係のある委員6名中6名が出席し、定足数を満たしていることを御報告いたします。

それでは、事務局より配付資料等の確認をお願いいたします。

【多賀谷課長補佐】 それでは、配付資料の確認をさせていただきます。資料につきましては、お手元の議事次第のとおりです。資料2につきましては、こちらの青いファイルで御参照いただければと思います。また、参考資料3-2につきましては、ヒアリングの時間割も兼ねてありますので、机の上に1枚置かせていただいています。

もし欠落等ございましたら、事務局の方まで御連絡ください。

以上です。

【高橋部会長】 配付資料等、よろしいでしょうか。

議 題

(1) 平成26年度業務実績評価の進め方について

【高橋部会長】 それでは、議事に入りたいと思います。

まず、議題(1)の平成26年度業務実績評価の進め方についてであります。これにつきましては、お手元の資料1について、7月9日に文部科学省のJAXA部会において、また7月10日に総務省JAXA部会において御説明させていただきました。事務局から補足の説明等があ

りましたら、お願いいたします。

【後藤推進官】 総務省でございます。総務省JAXA部会の委員、専門委員の先生方に補足で御説明させていただきます。

資料1にございますとおり、今回、独立行政法人通則法の改正がございまして、今回の評価からは、評価主体は主務大臣となり、審議会は主務大臣の評価に当たって助言を行う機関となりました。総務省では、去年は評価項目ごとに主担当・副担当を設けさせていただいておりましたが、今回は担当の割り振りはございません。JAXAの自己評価全体をごらんになりまして、自己評価と異なる評価であるべきとお考えになる箇所がございましたら、そこを中心に御意見を頂ければと考えております。また、JAXAの評価は妥当であるとお考えの箇所につきましても、御提案や御意見がございましたら頂ければと考えております。

以上でございます。

【高橋部会長】 ありがとうございます。

ただいまの説明及び前回においての説明も含めまして、何か御不明な点、事務局にお聞きしたい点がありましたら、お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、本資料のとおり、主務大臣が行う評価に当たって、審議会として意見を述べるための作業を進めていくことにいたしたいと思っております。

(2) 宇宙航空研究開発機構の平成26年度業務実績評価について

【高橋部会長】 次に、議題(2)に移りたいと思っております。

まず、JAXAから平成26年度業務実績の自己評価結果の総括をお願いいたします。

【JAXA(川端)】 JAXAの川端です。お手元の資料の1ページ繰っていただきまして、独立行政法人JAXAの平成26年度業務実績評価と書いてございますA4縦長の、この総括のところから簡単に御説明させていただきます。

JAXAは、平成25年から5年間の第3期の中期目標期間に入っておりまして、御評価頂きます平成26年度はその2年目となります。この年には独法通則法の改正、それから新しい宇宙基本計画の策定など大きく環境が変化しました。そういう環境変化に対応するために、理事長の強いリーダーシップの下で、人材育成と大規模な組織改編を行いまして、プロジェ

クトの確実な実施に加えまして、将来を見据えたミッションの高度な企画力、それから研究開発力の強化のための体制を整えたところでございます。

あと、分野別にごく概略を御説明申し上げます。

まず、衛星利用の分野でございますが、防災、減災対策としては、従前から航空機、衛星を使った取組がなされていましたが、実利用というところまでは行ってございませんでしたけれども、陸域を観測する衛星「ALOS-2」を打ち上げることによりまして、細かな地表の変化等の情報を高精度かつ迅速に観測できるようになったということで、これが国土地理院、それから気象庁の定常業務に組み入れられるようになりました。

また、洪水等の水災害については、アジアで甚大な被害を出していますが、こういったことにつきましてもJAXAが開発しました衛星の全球降雨マップに工夫を加えまして、その結果、パキスタンがそれを使った洪水予警報のシステムを使うことになりました。

また、民間の保険会社がミャンマーで衛星のデータを使った農業保険の販売を開始するなど、防災・災害分野以外の分野においても実利用が拡大しております。

次に、宇宙輸送分野でございます。この年には過去最高の年間5機、そのうち4機の打ち上げを下半期に計画いたしました。全てオンタイムで打ち上げることになりました。日本の基幹ロケットの信頼性、打ち上げ時期の実現精度の高さを世界に示したところでございます。

次に、宇宙科学・宇宙探査分野、学術の分野ですが、300本以上の論文が出ておりますが、ここに挙げさせてもらっていますように、暗黒物質の候補として存在を予測されてきたものについて、「ASTRO-E2」というX天文衛星が仮説的なものを否定するデータを得ました。

それから、金星探査機の「PLANET-C」という探査機のデータによりまして、太陽風の加速の機構の解明にとって極めて重要な情報が出た等々でございます。

それから、「はやぶさ2」は、御案内のように、年末に成功裏に打ち上げられまして、順調に運用を続けております。

次に、宇宙ステーションでございますが、日本の実験棟「きぼう」(JEM)の利用成果の最大化を目指して、引き続き取組を進めてまいります。

また、若田宇宙飛行士がコマンダーになりましたので、これについても万全の体制でサポートしたところです。

次のページでございますが、航空科学技術の分野につきましては、大規模災害時に救難ヘリのようなものについて、情報を共有しようというシステムをJAXAが作りましたが、

それを活用したものが総務省の消防庁によって正式に運用を開始しました。

それから、気象庁と共同研究をしまして、小型で安価な気象観測装置を開発し、また、10分前に大気の手予想が分かるような、そういうシステムを開発しまして、これは気象庁が羽田と成田につきまして、平成28年度から運用するという状況に至っております。

次に、情報技術の分野でございますが、ロケットは、受注から打ち上げまでいろいろな多様な解析作業が必要となります。これは個々に独立したものでございますが、これを連携させるような工夫を凝らしまして、解析工程等々を短縮できるようなめどを得たところでございます。

次に、産業振興、国際競争力の分野でございますが、産業振興への窓口としまして、新事業促進センターを一元化させて運用しております、産業界の求めに応じまして、講義・研修あるいは助言・援助をいたしております。

それから、政府が推進しておりますインフラ海外展開、この宇宙につきましても所要の協力を行ってまいりました。

次に、外交・安全保障、国際協力でございますが、防衛省の技術研究本部との包括協定の枠組みの下で、機構と防衛省の相互対話・交流を拡大させてきております。

また、日米協力における安全保障につきましましては、「日米宇宙状況監視に関する了解覚書」がございまして、これに基づきまして、JAXAとアメリカの実施機関との連携運用を日常的に行うようになりまして、信頼関係が深まっております。

次のページでございますが、広報・教育。広報・教育については、若田宇宙飛行士の長期滞在、はやぶさ2の打ち上げの成功等々がございまして、宇宙博その他機構単独では実現できないような大規模な機会を生かしまして、情報発信等に努めてまいりました。

また、宇宙教育指導者育成セミナーのようなものも開催し、あるいは、小中学校向けの体験型の科学教室「コズミックカレッジ」を開催いたしまして、事業が順調に定着しております。

業務運営につきましても、引き続き、効率化に努めてまいります。

簡単ですが、以上でございます。

【高橋部会長】 ありがとうございました。

(3) 宇宙航空研究開発機構からのヒアリング

【高橋部会長】 引き続き、評価項目ごとのヒアリングを行いたいと思いますので、JAXAより御説明をお願いいたします。

【JAXA（山浦）】 JAXA理事の山浦でございます。それでは、本日の順番、私のものが4件ございます。これを続けて御説明させていただきます。

お手元の評価資料、E-1ページをお開きください。

E-1ページ、上の方にブルーで中期計画記載事項が枠で書いてございます。その下に黄色の枠で平成26年度の目標ということで書いてございます。平たく申しますと、情報資産の重要性に鑑みてセキュリティ対策をしっかりと行うということに尽きるわけでございます。JAXAは平成24年度の後半及び平成25年度の初めにかけて、外部の標的となりましてセキュリティが破られたということがございます。

E-2ページでございますが、評定、評価結果はBでございますが、特に最初の黒丸に挙げました情報セキュリティ対策のために必要な強化措置の実施計画を、先ほど冒頭申し上げましたJAXAで起きましたインシデントを踏まえまして策定いたしました。大きく3つの視点でJAXAがさらなる強化を行うということにいたしております。

まずは、セキュリティの確保におけるマネジメントの強化。副理事長をトップとする委員会を作りまして、常に注意喚起及び状況の把握を行う。それから体制でございます。さらには外部の専門家に入っていて、しっかりと見ていただく。

2つ目の方策としまして、情報システムそのものを強化するということに取り組んでおります。

3つ目が、職員及びJAXAとの契約を結んでおられる企業の皆さんに対して、セキュリティの教育強化をしっかりといたす。

この3つでございますけれども、これに対して、矢印で2つ挙げてございます。我々として、情報システム、それからネットワークについて、より厳格なセキュリティ対策が、平成26年度、更に我々、どこに対して措置を行うべきかという検討を行いまして、外部からの切離し、それから真に守るべき情報のレベルに沿った情報の囲い込みといいたすでしょうか、外に出ない形でネットワークを構築するという検討を進めまして、優先順位を設定して順次やっていくということといたしました。

それから、訓練においては非常に巧妙なといいたすでしょうか、我々であえて最近の標的型メール等にありますがこれを模しまして、実際に抜き打ちの訓練を行っているというようなことでございます。

もう1つ、2番目の矢印で、疑わしい事象に対しては、政府の情報セキュリティ対応窓口
に照会を行うということを積極的に行っております。

結果として、平成26年度、重大な事案は発生しておりません。これについては今後も継
続していきたいと思っております。

E-3ページ、プロジェクト管理でございます。黄色い色を塗った四角の中にあります経
営層の関与したマネジメントの体制を維持するということですが、これは平成25年度から
特に強化して行っておりますが、平成26年度、さらなる工夫をして新しい仕組みを作るな
どして運営したという話をこれから御説明させていただきます。

その中でE-3ページに絵がかいてございますが、この平成26年度は、はやぶさを挟みま
して、国の非常に重要な衛星が前と後ろに控えてあった。これの中で最初のひまわり8号が
2度の台風に見舞われることも含め、非常に遅れたというようなことの中で、はやぶさ2の
打ち上げを、ロンチウィンドウ10日間の中でしっかり打ち上げたというようなことがあり
ましたが、これに対する政府及び関係機関との緊密なるマネジメントレベル、あるいは経
営レベルも交えた調整を行ったというのが、このE-3ページに書いてございます。

E-5ページの評定理由で、残りに関しまして御説明します。

E-5ページ、最初の黒丸は、私、先ほど申し上げたこととございまして、これはロケッ
トの現場もさることながら、経営層も含めたマネジメントレベルでの非常に綿密、緻密な
日々の半年間の中での運営をいたしまして行ったという結果で、今後の打ち上げ過密状態
が毎年続くわけですが、それに向けての実績を持つことができたと思っております。

それから、E-5ページ、2番目の黒丸ですけれども、この前半に書いてございますのは、
従来とは違ったプロジェクトのやり方を構築して運営しましたということとございまして、
太い字で下線がございまして、研究開発プロジェクトというふうに命名しておりますが、
要は、平たく申しますと、プロジェクトというのは、従来、最初に設定したものの目標は
めったに途中で変えるものではないというところとございまして、これに関しては国際的
な競争関係の中で、挑戦するという目標設定では柔軟に考えようと。さらにもっと重要な
ことは、産業界が最終的には成果の適用先と考えるということであれば、企業の皆さん
の方で資金、要員、設備等の分担をしていただくということで、より企業の側においても社
会実装への責任を持ってプロジェクトを進めていただけるという仕組みを作りました。

平成26年度は、これも太い字で下線を引いてございますが、航空分野でございまして
けれども、燃料を減らすファン・タービン、エンジンでございまして、これの技術実証のための

プロジェクト、それから機体騒音を低減するプロジェクトに関して、それぞれ企業のコミットメントを、お金、人、設備等の協力をもって行うことができおまして、既に特許の取得が期待できるような成果が平成26年度のうちに生み出せております。

3番目の黒丸ですが、これは従来から実施してきておりましたが、プロジェクトマネジャーとなるその人に対する要件を更に具体化し、厳しい条件設定をする。そうなるためのキャリアパスを人事の制度と組み合わせて構築するというをいたしました。

一方で、経営レベルの審査会を設けておりますが、その1つの代表例として、「H3」、新型基幹ロケットに関しては、経営レベルでかなり厳しいスケジュールと、従来にない多様な視点を持って審査を行いまして、政府関係者の御出席も得た審査の形態の中で、無事、プロジェクト移行をスムーズに行えたというふうに自負しております。

正直申しまして、これはAとしたかったところではございますが、やはり管理部門あるいはこの視点での仕事というのは、幾らやっても当たり前であるという認識の中でB評価という結果になっております。

それから次に参ります。E-15ページでございますが、経費の合理化・効率化でございます。

E-15ページの黄色い枠の中でございますけれども、一般管理費については、平成24年度に比べて15%以上の削減をする。それから、その他の事業費については、平成24年度に比べて5%以上の効率化を図るということ。それから、人件費の効率化、さらには保有しております資産のうちで遊休資産の処分を促進するという。それから、寄附募集等による自己収入の拡大に努めるというのが平成26年度の目標でございました。

E-16ページに、評価結果B、それから評定理由、そこに掲げてございます。JAXAとしましては、この年度計画で設定した業務は全て実施いたしまして、中期計画の達成に向けて順調に推移しておるといふ状況でございます。

数値については、申し訳ございません、E-15ページに戻ります。E-15ページの(3)です、一般管理費削減については、まずは10%の削減と。15%目標というのは、中期間5年の中での目標ということになっておりますが、10%の削減を果たした。それから(4)におきまして、5%以上の効率化を達成するめどを得たというのがもう1つの事業の方の数字でございます。

E-16ページの最初の黒丸ですが、平成26年度の前半に上がりました陸域観測技術衛星「ALOS-2」に関しては、衛星運用業務の効率化に向けて、民間事業者へ国内での事業を一

体的にお任せするというRFPをとりました。結果的には、衛星運用とデータ配布を一体で行うという民間事業者が現れまして、そちらを通じての有償での定常配布を進めております。

2番目ですけれども、電力削減、これは電力を見える化する、つまり、そういった電力メーターを多数設けまして、これを社内で、ある種、ウォーニングを発しまして、現場においては率先してといたしましょうか、自発的にむだな電力が少しでもなくなるようなシステム、ハード、ソフト的なシステムと、それから人間のそれを実行するという意味でのメカニズムを構築して進めておりまして、5.8%の電力使用量削減を達成することができました。

それから、設備の休止、廃局に向けた投資継続を進めておるとというのがロケット関係でもございます。

3番目の黒丸ですが、業務削減、毎年毎年繰り返している中で非常に厳しいんですが、これを再整理すべくリスクの再整理の中でやっております。

それから、小笠原用地については国庫納付の手続を進めております。

それから、自己収入の拡大に努めたという、寄附のメカニズムを更に動かしております。

それから、次でございます。E-19ページでございます。情報技術の活用のところでございますが、E-20ページの一番上に黒い枠で囲っております。情報技術及び情報システムを用いて業務の効率化、確実化、信頼性向上を図るということが目標になってございまして、E-21ページに評価結果を掲げました。B評価でございまして、評定理由をそこに書いてございます。我々として、特にH3、新型基幹ロケット開発に向けた業務の効率化のめどを得るというところございまして、これはE-20ページに書きましたが、ここでは具体的な御説明は省略いたしますが、エンジンの試験においては従来に比べて格段に情報システム技術の適用をもって行うということができました。最初の黒丸にそれが書いてあります。

それから2番目で、JAXAの新たなスーパーコンピューターの立ち上げを10月からしております。これによって処理能力の格段の向上と電力費、いろいろ人件費も含めて削減ができましたし、業務への適用も進めることができております。

それから、財務会計管理業務の関係でも、更に世の中にあります調達サービスを活用する等々を行いまして、これについても細かくはございますけれども、内部での申請業務の効率化といったようなところも含め、地道な活動を進めてございます。

説明は以上です。

【高橋部会長】 ありがとうございました。

それでは、今までの総括及び項目を4項目御説明いただきましたけれども、御質問、御意

見ありましたら、お願いいたします。

【梅比良部会長】 よろしいですか。

【高橋部会長】 どうぞ。

【梅比良部会長】 E-5で、企業と資源分担のコミットをして2件立ち上げたというお話がありましたが、こういうやり方は全く初めてなのですか。

【JAXA（山浦）】 はい、そうでございます。

【梅比良部会長】 共同研究であれば通常、研究者や研究経費を出し合うのが普通なので、どこかでこういうものがあつたのではないかと思ったのですが。

【JAXA（山浦）】 金額的に、もう2桁ぐらい下の、これは実際には数十億規模のプロジェクトですし、それから企業さんの方の覚悟のほども、やはり実用につなげるという意味での、特に航空関係ですけれども、そういった企業が経営の上までお話をされて行うというので、資金規模、全体の規模が大きい……。

【梅比良部会長】 規模が大きいものだということですか。

【JAXA（山浦）】 はい。2桁ぐらい大きい規模だというふうにお考えいただければ……。

【梅比良部会長】 単純に研究開発というだけではなくて、最後の実用まで企業が考えておられるプランについて、こういう形でやったのは初めてだということですか。

【JAXA（山浦）】 そうです。実際にエンジンのお話をしましたら、外国に売れる、世界を席卷できるようなエンジンとして中に技術を入れていこうという、そういう取組でございます。

【梅比良部会長】 これは何か特別なことをやられたから、こういうことができるようになったのですか。それとも純粹にそういう営業努力をされたというところが今回新しいものなのでしょうか。

【JAXA（山浦）】 プロジェクト目標を極めてシャープに、何年先に市場投入すれば勝てる目標が何であるかということと十分JAXAと企業の皆さんと突き詰めて共有しまして、したがって、ちょっと言葉が出てこないんですけども、ベンチマークの仕方を従来に比べて変えました。そういうことは航空の世界では比較的売ることとトレンドが読みやすい部分があるということとできたと思います。やはり目標設定を共有したということだと思います。

【梅比良部会長】 では、いつまでに技術を開発して、いつまでにビジネスにするという計画をたてて、研究開発をなさっているわけですね。

【JAXA（山浦）】 そうですね。何年に市場に投入できたら、これは世界の機体メーカーのどこそこに売れるという、そういうところまで。

【梅比良部会長】 なるほど。下世話な話になるのですが、それがうまくいった場合には、JAXAにも何らかの返しがあるような話はあるのですか。

【JAXA（山浦）】 はい。

【梅比良部会長】 そこまでは突っ込んだ話はまだされてないのですか。

【JAXA（山浦）】 いや、その次のフェーズでまさにあると思いますが、ただ、我々もロイヤリティーは頂くという、それは事業化された後の段階でのことです。

【梅比良部会長】 なるほど。

【JAXA（山浦）】 はい、そういうことでございます。

【梅比良部会長】 そこまでやられているのなら評価はAでもいいのではないかという気が正直少しいたしましたが、きっと実現後に評価なさるのでしょうね。

【JAXA（山浦）】 飽くまでも当たり前前の成果であるという評価になっております。これが実を結んだら、AでもSでもやるよという、こういうことでございます。実はこれ、相当に苦勞して作り上げました。

【梅比良部会長】 分かりました。どうもありがとうございます。

【高橋部会長】 ほか、ございますか。

藤本委員、お願いします。

【藤本専門委員】 セキュリティに関してですが、E-2ページに、近年サイバー攻撃が国際規模で高度化しているとあります。制御システムや組み込みのシステムに対する攻撃への対策は非常に重要だと思っておりますが、その辺について、お話しいただけない部分もあろうかと思っておりますが、可能な範囲でご説明いただけますか。

【JAXA（山浦）】 まず一言で申し上げますと、JAXAに外から入ってくるものをいかにしつかり止めるかと。その止め方を系統的にどのように止められるものにするか。今度、一旦入ってしまったものに対して、その影響が及ぶ対象範囲を一番機微な重要なロケット技術といったところについては、完全に最重要のシステムとして守る、切り離すという形で守ります。

【藤本専門委員】 切り離すということですね。

【JAXA（山浦）】 はい。あとは、一番最近、年金の話でもありましたが、メールによる攻撃、これについては本当にリテラシーといいましようか、そういうことを上げていく以

外にないということで、当然、システムも強固にしておりますけれども、そんなことを地道に取り組みました。

【藤本専門委員】 訓練等によって意識を高めるということですか。

【JAXA（山浦）】 訓練は非常に抜き打ちで、容赦なく抜き打ちでやっています。役員にも行きますし、役員も間違えてというぐらいの大変に厳しい。そこでまた間違えたら、それなりの講習が待っているということを繰り返してやっております。

【藤本専門委員】 ありがとうございます。

【高橋部会長】 ほかはいかがでしょうか。

長辻委員どうぞ。

【長辻臨時委員】 不正アクセスに関連してなんですけれども、平成26年度は重大な事案は発生しなかったということで見事に防いでいらっしゃるんですが、不正アクセスそのもの、これはやっぱり増える傾向にあるんですか。メールによる攻撃も含めてですけれども。

【JAXA（山浦）】 部長がいるので、答えさせます。間違いなくそれは世の中の縮図のよなものだと思います。

【JAXA（館）】 やっぱり増えております。メールだけではなくて、いろいろな形での不正アクセスは増えています。

【長辻臨時委員】 例えば、平成26年度の場合、平成25年度と比べて何%ぐらい増えているというのは。

【JAXA（館）】 ちょっとその数字は、今、持っていませんので、多分、メールが常にブロックされてはじいてしまいますので、絶対数では出てこないところがあります。

【長辻臨時委員】 はねた件数はカウントは、確認はできないんですか。

【JAXA（館）】 ちょっと今、その書いたものを持っていないので、何%はねたというのはちょっと分かりません。

【長辻臨時委員】 あともう1つ、これは細かいことですが、川端理事の方でお気付きになったかもしれないけれども、総括の2ページ目、「パキスタンが」じゃなくて、「パキスタンで」ですよね。

【JAXA（川端）】 これはパキスタン政府がということなんですけれども……。

【長辻臨時委員】 でも、いや、文章としての続きがそれはおかしいでしょう。

【JAXA（川端）】 はい、そうですね、日本語がおかしいです。

【長辻臨時委員】 ね。細かいことですが、気付きましたので。

【JAXA（川端）】 「が」がついていると変です。ありがとうございます。

【高橋部会長】 ほかはいかがでしょうか。

白坂委員どうぞ。

【白坂臨時委員】 情報技術の活用というところで、1点教えてください。数字として今分かるかどうか分からないのですが、ロケットの方ですが、ソフトウェア製作工程期間短縮、半減のめどを得たという、これはもともとの期間がどれぐらいの長さのものが半減するようなイメージか、もし数字が分かれば教えてください。元々短いものが短くなることと、すごく長いものが本当に半分になるのでは、成果が違うので、絶対値をおしえていただきたいのですが。もし分かればと思ったのですが、ちょっと今、分からないですか。

【JAXA（山浦）】 済みません、私の手持ちの資料に書いてあるかもしれません。ちょっと調べさせてください。

【白坂臨時委員】 済みません。

【JAXA（館）】 今おっしゃっているのは、多分、E-20ページのミッション解析のところのことをおっしゃっているのでしょうか。

【白坂臨時委員】 E-20ページのところに、効果の1の「また」のところ、1項なんです、「ソフトウェア定数設計の自動化ツールを試作したことで、ソフトウェア製作工程期間短縮（半減）の目処を得た」というのが、どれぐらいのものかを知りたかったのですが。

【JAXA（館）】 今のところ、5.5か月ぐらい掛かるものを1,2か月にするという、そういう見通しでございます。

【白坂臨時委員】 なるほど。では、半年ぐらいのものが短くなる感じですね。

【JAXA（館）】 そうです。これは飛行解析のところを短くするということです。

【白坂臨時委員】 なるほど、分かりました。ありがとうございます。

【高橋部会長】 ほかにございますか。

永原委員、お願いします。

【永原臨時委員】 こちらを先に。

【入澤専門委員】 入澤です。経費の合理化・効率化で、一般管理費の削減について10%削減となっているのですが、別途配られているJAXAの平成26年度決算の概要の6ページ、損益計算書の概要では一般管理費が59億から60億と増えております。これは何かほかの理由があって増えているのか、それともここに書いてある説明が異なるのでしょうか。

【JAXA（山浦）】 申し訳ありません。ちょっと私、そのところは後ろの担当部長に答えてもらうしかありません。

【JAXA（成島）】 財務部部長の成島でございます。今のところは、概要の何ページでございますでしょうか。

【入澤専門委員】 概要の6ページです。

【JAXA（成島）】 6ページですね。

【入澤専門委員】 損益計算書の概要なのか、それとも予算・決算上の話をされているのかちょっと分からなかったのですけれども。

【JAXA（成島）】 先ほどの一般管理費については、まず、基準となる額が平成24年度の予算額を22億としておりまして、実際、実績として、今、2億円削減をしている、約10%削減しているということになっております。ここでは、経常費用、一般管理費としていますが、ここはほかのいろいろな人件費とかをいろいろ含んでいますので、ですから、額は大きい、億単位になっていると思いますけれども。

【入澤専門委員】 人件費の方も合理化、別のセクションになるかと思えます。

【JAXA（成島）】 人件費の方は、今まで第2中期計画までは人件費単年1%とかあったんですけれども、今度は第3期になりまして、人件費の削減は基本的に効率化に努めるという形で、人件費については具体的な目標数値はありません。

【入澤専門委員】 あともう1つ。

【高橋部会長】 はい、どうぞ。

【入澤専門委員】 プロジェクト管理をB評価とされていますが、別の宇宙輸送システムの評価はAとなっていて、この2項目とも、年間5機打ち上げたということを大きな理由としております。それが金曜日に行われた説明では、宇宙輸送システムはAとされているのに、今回、プロジェクト管理でも同じ実績で5機というのを強調しておられるのにBとした、具体的な理由をお聞かせください。

【JAXA（山浦）】 プロジェクト管理の、私、きょう御説明した範囲というのは非常に広うございまして、このロケットに関するところは、ある意味、1つの側面です。E-3ページの黄色い部分に書いてありますように、今回のロケットの過密なところよりも、むしろプロジェクトの確実な実施のために経営層が関与したマネジメントをしっかりとやるということで、ある意味、それはそれでしっかりやっているというのが今回の評価でございます。もう随分工夫はして新しいことは編み出しておりますけれども、やはり相対的な目標のと

ころを見ると、これをAにする、Sにするというところの価値観といいたいでしょうか、そういったところの判断としてJAXAの中ではそのようになってしまいました。

【入澤専門委員】 分かりました。

【高橋部会長】 永原委員、お願いします。

【永原臨時委員】 ただいまの御質問とほとんど重複するのですが、全ての項目がB評価であるという点です。確かにやるべきことをやって、当然でBである、ただ、恐らくかなり最大限の努力をされているのではないかと、特にいろいろ外的条件も変わってきて、かなり努力されているように思うんですが、ただ、これでBだと、逆に言うと、AやSに、さっきちょっとこういうことが経営別でうまくいったらということはありませんけれども、ほかの部分、例えば情報セキュリティとか、合理化とか、恐らく最大限の努力をされていて、このまま行くと、つまり、SやAになることはもうないのではないかと感じてしまうんですが、確かに御自身に厳しくとすばらしいとは思いますが、まだ更に余地があるのかという辺が1つ分からないという、もう少し御説明いただければと思います。

【JAXA（山浦）】 分かりました。理事長の価値観で決まっております。

もう1つ、こういうものが、平成24年度評価で1ついい例がございましたのが、安全管理です。これは必ず安全にやっていることは当たり前であるということが第2期、今は第3期でございますが、第2期の5年間しっかりやれたということで、5年間通してSになりました。各年度が、ちょっと今年AとBでずれておりますけれども、当時の表現で言うと、ずっと毎年当たり前だというのがAだったんです。それがS。今年の表現だと、ずっとBだったのがAになったと。これもそういう類いの仕事であるからして、5年間しっかりとこれを継続すること、あるいは、特に何か、世の中が本当に目を回すぐらいの優れた何かがあればともかく、毎年しっかりやっていて5年間通じて初めてAになるというものだというのが理事長の判断でございます。

【永原臨時委員】 もう1つ、個別事象でよろしいでしょうか。

【高橋部会長】 はい、どうぞ。

【永原臨時委員】 プロジェクト管理のところで、プロジェクトマネジャーの育成ということが書かれていて、今の日本では、やはり本当にこのリーダーの育成というのは重要なことだと思うんですが、具体的に特別に何かをされたんでしょうか。

【JAXA（山浦）】 まずは、プロジェクトマネジャーになる前のプロセスとして、そのサブマネジャー、あるいはそれに匹敵するような全体が見える仕事に携わることを1つの条件

とすとか、あるいは、さらにその前に何か1つ専門分野に打ち込んで、それでプロジェクトの勘どころを押さえる訓練をすとか、あるいは、教育のマネジメントの勉強をして資格を取るとか、そういったことを明文化して、それで人事の方でもそれを生かした人事異動を考えるということを組織的に時間を掛けて定着させるという取組を今まで以上に明確にして、平成26年度から開始しました。

【高橋部会長】 ほかはよろしいですか。

古城先生どうぞ。

【古城部会長代理】 担当部門と別に評価組織を設けられたというふうに書かれているんですけども、それは今年度初めておやりになったことですか。

【JAXA（山浦）】 いえ、違います。これは10年とは言いませんが、5年ぐらい前、もうちょっと前だったか、ございます。評価という意味は、常に第三者、無責任に何かを言うのではなくて、課題を抽出して、それを一緒に考えて、どう解決していくかということも含めてやっておりまして、そういう役割の人をプロジェクトとは別にチームを設けて常にそういうところの見方でいろいろ進めておるといふ仕事のやり方でございまして、今年からはありません。

【古城部会長代理】 そうですか。そのやり方も含めて今年何か新しくやられたということはあるですか。

【JAXA（山浦）】 今の評価について申しますと、今までの知見を全部積み重ねて、それで、評価側の人も代々かわる中で、より具体的な議論がJAXA横断的にやるように、この責任者がマネージをしっかりとしてくれているというところでもあります。

あとは、定着させたというところでは、評価チームの人がいて当たり前、それから、そういう人たちのチェックを必ず受けようというところが定着したのは難しいプロジェクト、特に新型基幹ロケットのような数十年ぶりにロケット開発する現場では、特にうまく機能したと思っています。

【古城部会長代理】 はい、分かりました。

【高橋部会長】 ただいまのプロジェクト管理について、JAXA側が厳しく評価し、評価する側は、ちょっとそれは厳しいのではないかという、普通とは逆の傾向があるのですけれども、1つ気になる点があり、意見として聞いていただきたいと思います。どちらかというと、各プロジェクトというのは非常に華々しくて、評価されやすく、SとかAがつきやすいんですね。一方、本日の評価項目は、ほとんどがサポートする側といいますか、支える

側ですよ。しかし、実際、それがないと、華々しい成果も本当は出ないと思います。したがって、JAXAの中で、プロジェクトを支えてくれる人たちをどう評価するかが大事だと思います。理事長も含めて、御検討なさって、支える側の人たちのモチベーションが下がらないよう、もっと上がるような、そういった評価の仕組みなり、やり方を考えていただければと思います。きっと皆さんも同じ思いではないかと。持ち帰って、そういうことも言われたと理事長に言って、活かしていただければと思います。

【JAXA（山浦）】 ありがとうございます。

【高橋部会長】 それでは、時間ですので。

【梅比良部会長】 済みません、1点だけ。大丈夫ですか。

【高橋部会長】 はいどうぞ。

【梅比良部会長】 E-16の一番上の黒丸に、ALOS-2の衛星運用とデータの配布を行う民間事業者を選定し、定常配布を開始したとあるのですが、これは何か業務委託をされているという意味なのですか。それとも、いわゆるALOSのデータの活用という意味では、一種のビジネスみたいなのところもあるのかと思ひまして、どういうスタンスでやられているのか、御説明をお願いします。

【JAXA（山浦）】 我々として、このデータ配布がより社会に役立つ形で民間事業者の営業センスをもって売り込みをかけていただくことまでオーケーとする。そのときに、運用業務も我々の手を離れてしっかり責任を持ってやってもらえれば、やってもらう技術力が民間の方にもありますし、我々としても安心して任せられる事業者も幾つもあるという、そういうところで、できるだけ我々の手を離れて、民間活力をうまく使うことでデータ利用が促進できるという、そういう発想でございます。

【梅比良部会長】 では物を作って売るときに、商社を使うような感じなのでしょうか。

【JAXA（山浦）】 いや、もっと、画像データの処理もできますし、それに対して付加価値を付ける能力も持つ企業さんが担当されています。

【梅比良部会長】 では、持っておられるデータをベースに、いろいろ使いやすいように加工したり、積極的に使ってもらおうという意味では、JAXAから見たら、ビジネス部門のような位置付けということなのでしょうか。

【JAXA（山浦）】 まあ、そうですね。

【梅比良部会長】 分かりました。どうもありがとうございます。

【高橋部会長】 ありがとうございます。

それでは、続いて、JAXAより3項目について御説明をお願いいたします。

【JAXA（川端）】 次は、契約の適正化というところでございまして、E-10ページ目、評価結果でBと書いてあるページがございしますが、契約の適正化というのは、一般競争入札するとか、情報提供するとかということで、公正にやってくださいという、そういう類いのものがございますけれども、そういう意味では、Bの下の方をまず見ていただいて、総件数3万弱ぐらいの件数で、1,755億円の契約につきまして、原則として一般競争入札とやってきて、随契、よく高過ぎるとい御批判が一般的にあるものですが、随契の比率は金額で22.8%です。

済みません、ページ、よろしゅうございますか。E-10ページのこの評定理由のところの下の方のその他云々と書いてあるところ、ここが実際は事業の結果みたいのところになっていまして、随契の割合が金額で22.8%、決められています見直し計画では37.3%になっていますので、相当低い水準で随契が抑えられているということです。

それから、一般競争入札でやる場合にあっては、競争性、透明性を確保するようにいろいろ留意をして、公告の予告をしたり、調達情報のメール配信サービスみたいなことをやって、登録事業者に対して入札情報を送信しています。4,200社ぐらいございます。

それから、入札と契約の適正な実施については、監事、外部有識者によりまして、随契と一者応札が多いという御批判もありますので、一者入札の案件の点検を受けまして、改善策等を実施しています。

それから、随契の見直し計画の実施状況等につきましては、ウェブサイトの方に公表するというようなことで、契約についても件数は多うございますが、しっかりやっているということで、Bということです。ここで上にいろいろ書かせてもらっていますのは、プラスして頑張りますということが書いてあるわけですが、上の方で幾つか、平成26年度に契約とか調達という、今おっしゃったやや地味な部門ですが、人にいろいろ言われないうように着実にやるということだけではなくて、研究開発法人になるということで、イノベーターなことを考えようということで、職員が、特に若手を中心にいろいろ考えて、今、この3つぐらいのことを検討しています。

1つは、調達企画機能の強化ということで、研究者、技術者、技術者の現場部門と、それから調達する部門が各々普通は別々でやっているわけですが、調達プロセスの初めの段階から一緒にやって、よりよいもの、あるいは手戻りがなくなるような、そういう作業の方法に変えようではないかということをやっている、現在、その一部のプロジェ

クトについて、そういう仕組みで試行を開始したところです。

それから、(2)の先進的調達方式、これ、先進的というのは勝手に付けているだけですけれども、入札してから、その後、相手と対話をしながら、よりよいものを対話の形で作り上げていって契約を結ぶような対話型選定方式というものとか、それから、履行の成績評価をやると、これは建設工事などでは一部やられているものですが、そういったものやってみるとか、あるいは、調達をもっと効率的に早くできるために、もっと簡易型の競争制度、インターネットを使うとか、そういったウェブを使ったものとか、そういったものもやってみようということ。それから、やや小さい話ではありますが、安価な調達は、実はインターネットサイトでパパッと買ったりする方が安くて早い場合が多いわけですが、なかなかやられていないものですから、そういったインターネット購買のようなものも、今、試しに始めたところです。

それから(3)の定型業務の外注化、これはまたどの法人も人件費が抑えられているのでやっつけらっしゃると思いますが、こういったものも更にやろうというようなことで、いろいろ、これは実は社内では、理事長はじめ非常に評判がよい、よくやっているという類いのものであるんですけども、これで今、画期的に何かが起こっているわけではないので、この取組は平成26年度でやったんですけども、平成27年度から成果が出てくる類いのもので、ここはさておきBというふうになっていまして、乞う御期待みたいな形になっております。

それから次が、柔軟かつ効率的な組織運営、これも評価結果のところのページを言いますと、E-14ページです。これはその前、12ページから始まっていますが、14ページに評定理由の総括がございまして、ここもなかなか何を書くか難しいところなんですけれども、理事長の強いリーダーシップの下で、特に研究開発法人であるということ去年から非常に意識しておりましたので、研究成果の最大化を図るための仕掛けの内部環境を整えたということで、ここで2つ例を挙げていますが、1つは、JAXAができて以来、最大規模の組織改編を行った。JAXAは、かつてプロジェクトの失敗をしたことがありまして、それ以降、失敗しないように衛星ロケットを打ち上げるということでやってきて、それは非常に成果が出たところです。今度は、もう一歩進んで、将来を見据えたミッションを自分で考えるような企画力とか、研究開発力も高めようということをお願いとして、大規模な組織改革を行いました。それが1つです。

もう1つが、言葉は悪いですが、宇宙や航空の関係者の中でいろいろ工夫する、あるいは、

自分を中心に考えるということではなくて、外に開かれた組織になりましょうということ
で、筑波地区においては、産総研とか、物材機構とかと協力関係を結びまして、いろいろ
な成果が出るように工夫したところです。

それから、そういった同じような研究開発法人、研究をやっているところではなくて、
JICAのような毛色の違うところ、それから科学技術振興機構のようなファンディングエー
ジェンシーのようなところと包括協定を結びまして、新しい枠組みの下で外向きの展開を
図っているというようなことをやっておりますので、やっておりますと言いながらもBなん
ですけれども、いろいろな工夫をしているということでございます。

次が、人件費の合理化でございます。これは17、18ページが人件費の合理化・効率化と
いうところでございます。

これもなかなか言い方が難しいんですけれども、ここは人件費を基本的には減らせとい
うことかもしれません。機構の給与水準について、業務の特性を踏まえた適正な水準かど
うかということですが、民間の航空宇宙関係の給与水準も一応調べて対応はしているとい
うことです。実際には、平成25年度の給与水準は、事務・技術のところでは、ラスパイレ
ス指数で国との比較において117。それから、平成26年度では105%。これは実際には震災
の臨時特例がありますので、その分、過剰に減ったように見えますが、それを補正しても
110%ということで、ラスパイレス指数は年々減ってきております。

それから、総人件費の見直しについては、人事院勧告に準じてやっておりますので、政
府の方針を踏まえて適切に対応しているということで、B評価を付けさせていただいており
ます。

以上でございます。

【高橋部会長】 ありがとうございます。

それでは、ただいま御説明いただいた3項目につきまして、御意見等ありましたら、お願
いいたします。

どうぞ、平野委員。

【平野臨時委員】 契約の適正化と組織改革に関して伺いたいと思います。両方とも成
果と申しますか、インパクトという部分について、どのような状況、どういうものが見え
ているのかということです。随契の割合を目標値よりも更に少なくし、競争入札の割合を
増やしたであるとか、インターネットであるとか、新しい技術を使っていると色々な取り
組みをされていますが、購買金額そのものがその結果として実際に抑制されている、コス

トが減少されているという、そういう実質的な成果を伴っているものなんでしょうか。

【JAXA（川端）】 もともと1個1個の個別のものについては比較はできませんが、制度としてももともとなぜこういう随契を減らそうとしているかということ、そういうことが全体として起こるであろうとか、あるいは、不正なことが起こらないということで随契を減らそうと今までしてきたんだと思いますので、我々は当然そういうことが結果的には起こっているということでやっていますが、競争があれば公平で安くなるという、それが1つのある種の前提として考えているということでございますので、1件1件、本当はこうだったのにこうだったというのは、あんまりないと思います。

【平野臨時委員】 では、その成果測定は特にやられていないという理解でよろしいですか。

【JAXA（川端）】 特にやっていません。

【平野臨時委員】 特にやっていない、ということですね。

【JAXA（川端）】 はい。

【平野臨時委員】 それはやられた方がいいように思います。それが1つ。

【JAXA（川端）】 はい。

【平野臨時委員】 それから、この組織の改革で、新しい理念の下で幾つかの御説明がありました。これらの改革は、いつ実施をされて、その結果として、組織の活動の様相がどのように変わって、何らかの違った、すぐにというものでもないのかもしれませんが、成果が見えつつあるのでしょうか。あるいは、その成果をどう測定しようとしておられるのか、そこを御説明いただけますか。

【JAXA（川端）】 実はこれも先ほどの契約の議論と同じでして、これ自身は平成26年度に議論して、議論を延々繰り返して新しいガラガラポンをやったんですが、改正そのものは実は今年の4月1日です。したがって、今、4、5、6と3か月ぐらいの過渡期の状態ということ。そういうこともありまして、実際はこういうことがいろいろな議論がありながらできたということ自身で、職員のマインドセットはある種そろったという内在的な変革は起こったと思いますけれども、おっしゃるようにこれでどうなったというのは、本当にまだこれからということでございます。

【平野臨時委員】 組織の改革はすぐに成果が見えるものでもないし、いろいろな形でそれが表れてくるので、なかなか評価は難しいものなのですが、せっかくここまで大きく変えられて、やっぱりその所期の目標とするところも明らかにあるはずですので、何らか

の形でそれも定性的になっても構いませんから評価をしていただくと、それこそ自信を持ってAという評価もできるのだと思います。その観点から購買改革も、あるいは契約の工夫にしても、組織改革にしても、所期の目的に照らしてどうなんだというところで評価をしていただければと思います。

【JAXA (川端)】 そこはそうだと思います。ただ、組織自体、本当に硬直化した組織は変えること自身が非常に難しいということがありますので、今回そこを乗り越えたというところはあるかと思います。成果については検証したいと思います。

【高橋部会長】 ほかはよろしいですか。

末松委員、どうぞ。

【末松専門委員】 E-13、14の組織運営で、副理事長を研究本部長に充て、筑波在勤として研究開発力を強化して、筑波地区での連携の仕組みを作り成果を上げられたという報告があるのですが、研究開発というと、やはりもう1つの拠点として相模原があると思います。筑波をまずこういう形で改革していったというのは分かるのですが、この後に相模原でも何かやろうとしていらっしゃるのか。それともすみ分けとして、連携は例えば筑波で行うとか、大きいグランドプランニングがあってやっているのかどうかを教えてくださいませんか。

【JAXA (川端)】 全体いろいろ書いてあるイメージは、筑波にはJAXA以外にいろいろな国立の、あるいは民間の研究組織が集積しているので、そこと知恵をかりてやりたいという、そういう意向があるものですから、筑波を中心に動いているようになっていますけれども、相模原は相模原で物理的には周辺にあるわけではないので、ただ、相模原は大学共同利用システムを運営していますし、本来的にはそういうオープンイノベーションの拠点となるべき性格のもので、そちらを手を抜いてとか、そういうことではありません。ここはむしろ筑波はせっきやく近隣に立派な組織がいっぱいあって、しかも宇宙ではないけれども、よく見たら宇宙に使えるようなものやっっているところがたくさんあるので、そういうところと組もうという趣旨でここにいろいろ書かせていただいている、誤解を与えていたら申し訳ございません。

【末松専門委員】 分かりました。ありがとうございます。是非相模原についても次に何か考えていただけるといいのかなと思いました。

【JAXA (川端)】 はい。

【末松専門委員】 もう1点、よろしいでしょうか。

最近急激な円安が進んでいますが、例えば外国人を雇用したい場合の外国人給与とか、あとは経費等々でもお話があるのかもしれませんが、円安対策はどういうことをお考えなのでしょうか。

【JAXA (川端)】 特に円安対策で給与云々というのは考えていないと思います。むしろ外国人に来ていただきたいと思えるような研究をするかどうかという……。

【末松専門委員】 来ていただけるようにまずは頑張るとのことですね。

【高橋部会長】 ほかはよろしいでしょうか。

ありがとうございました。

それでは、残りの3件につきまして、JAXAより御説明をお願いいたします。

【JAXA (川端)】 次は、施設・設備の関係でございます。これはF-1から3ですが、3をごらんください。最後の評定理由というところになります。

施設につきましては、長期的に幾ら予算がつくかというのがなかなか見えない中で、毎年、中長期的な計画を作っていて、優先度に応じて補正予算なども繰ってくるのを考えながら適宜対応しているということですが、平成26年度は、平成17年度から計画的にやっていた建築基準法への合致、これはあらゆる大学でもどこでもやってきていることですが、これについて順調に来て、耐震化がJAXA全体で終わったということです。

それから、年間5機という今までで一番たくさんロケットを打ち上げまして、電力を消費する機会が増えたということではありますが、全体としては電力を削減しているということです。

耐震化につきましても、ここにやや例示を書いています、5棟あった建物を機能を考えて3棟に整理集約してどうこうするとか、個別にはいろいろな工夫をもちろんやってきたわけです。それから、建屋についても天候にかかわらずに実験できるようにするとか、老朽化をしていく過程では、現場ではもちろんいろいろな工夫をしてやってきた、それで全部終わった、そういうことになりますけれども、それもそういうことをするのが当たり前だと言えば当たり前でもあるので、ここはちゃんとやったということを書かせていただいています。

それから、老朽化の更新でも、大きなリスクを低減しながらも電力を年平均1.7%を減らしてきていますので、目標値の1%削減要求をクリアしております。先ほど説明申し上げましたような電力の見える化をやったり、あとは、これは内部の問題ですが、使うところの予算でというふうに予算の付け方を変えたりして、全体として節電意識が高まっていまし

て、効率的なエネルギー消費になってきているというふうに考えています。

ただ、全体としてはBということにさせていただいております。

それから、以下、人事で、次のページのF-4からですが、F-5に評定理由がございます。

JAXAの特色は、人事を含めて人材育成については、理事長をトップとした人材育成委員会を置いて、理事長と役員が入っているようなところで、重要案件として議論しております。その議論を踏まえてやっていくという仕掛けのところが1つ。それで、職員の適正な要員配置計画を作るというために、機能別の人員分析とか、女性の活用、ワーク・ライフ・バランス云々、こういったことについてもいろいろ進めてきたということです。

それから、研究開発力の強化に向けては、専門技術者、それからプロジェクトに進む者のキャリアパスをできるだけ明確にして、特にプロマネについては先ほど御説明がありましたように、プロマネの選考要領みたいな内部文書がございまして、プロマネというのはこういう能力が必要であるというのを定めて、そういう能力を得させるためには、こういう人事がいいというふうな、たまたまこいつがいいではなくて、そういうことを考えて育成していくというような仕組みを整備したということです。

それから、現場意識の向上とか、JAXAも現場があちこちにあって大きな法人ですので、一体感が非常に重要なので、新卒の新人研修については、新しく現場実習を全員やらせるようにするとか、いろいろな工夫してやってまいりました。

それから、もちろんJAXAの場合はプロジェクトが終わっては立ち上がりということが繰り返されますから、そういったものをうまく次のプロジェクトをにらみながらさばっていくというようなことが必要ですので、本部をまたいで横断的にこういう人事を考えていく。

それから、先ほども若干御質問がありました。国の内外の人材を糾合するためにということで、今回は柔軟な報酬給与制度ということで、イノベーションフェロー制度を設けて、特に優秀な方は理事長より高い給料、青天井の給料を付与するというような制度を設けました。したがって、先ほどの、もし外国人で極めて優秀な方がいらっしゃったら、イノベーションフェローとして高給で迎えることが可能だという枠組みができました。

それから、クロスアポイントメント制度というのは、今、政府で推奨されていますが、そういったものについても受け入れられるような仕組みを創出するというので、柔軟に新しい仕組みの導入をしております。

評価としては、全体としてはBということにさせていただいております。

以上でございます。

【高橋部会長】 安全・信頼性について説明をお願いします。

【JAXA (武内)】 続きまして、安全・信頼性を統括しております武内と申します。安全・信頼性に関する事項について御報告いたします。

F-6ページ、冒頭に書いてございます中期計画の記載事項でございますけれども、ここでは品質保証の管理体制を構築・維持して、これを運用し、万一ミッションの完全な喪失が生じた場合は、経営層における責任を明確化して、原因究明、再発防止を図るということで、JAXA横断的な活動、主に底上げの活動というところをこちらで述べてございます。

品質マネジメントシステムを確実に運用いたしまして、訓練、教育を継続的に行って、機構全体の意識向上を図り、実際関係する技術情報、標準、基準など、そういったようなものによりまして、技術の継承・蓄積と予防措置の徹底、事故・不具合の低減を図るということと、打ち上げに際しましては、安全確保を図るというところでございます。

次のページ以降、幾つか書いてまいりましたけれども、最後のページ、F-9をごらんいただきまして、評価結果といたしましてはBを付けてまいりました。年度評価で設定した業務を全て実施し、順調に推移しているということでございます。

品質マネジメントシステムについては、全般的にやるというよりは、重点を中心にフォーカスして運営をするということでやってまいりました。そして、機構内外での情報共有、連携を進めまして、安全・信頼性活動の実施及びそれを担う要員の能力向上が行われたということでございます。

この能力向上につきましては、特に入社5年目までの技術系の職員は、全員があるレベルまでこのあたりの素養を身に付けるということで進めてまいっております。

前年度は、何度か出てございますけれども、ロケット5機の打ち上げということで、搭載人工衛星など軌道上の運用及び開発は、安全かつ順調に行われまして、経営層の責任に至る事象はございません。

幾つかトピックを挙げさせていただきますと、不具合情報というのは、従来JAXAと各社さんが1対1でその情報をうまく活用しようということをしてきたんですけれども、だんだんそれだと知恵の回りが遅いということで、企業の垣根を超えて、小さいパイゆえに我が国独自として新しい取組としまして、共通問題、このときは電気コネクタの不具合が散発したところでございますので、そこにつきましては、我々が一番情報をまず入手できておりますので、我々主導で各社及び機構にも経験がある者もございますので、それを持ち寄りまして、相互に分析を進めることによりまして、作業手順や研修教材として各社が活用す

ることができ、企業からは関係企業への展開も進んでいるというふうに聞いてございます。企業の皆さんからも同様な活動を継続したいという期待がなされておりまして、今年度は機械試験でフライト品を損傷させないにはどうしたらいいかというような方策を一緒に考えているところであります。

また、不具合情報につきましては、打ち上げ間隔が厳しい中でも、いろいろ打ち上げの審査会などでタイムリーにほかのプロジェクトで生じた不具合がそちらに波及しないかというようなことを常に見てまいりまして、タイムリーな措置の対応を行うことができたと考えてございます。

それから、企業からの要望に基づきまして、世界標準に沿った品質標準にしようということで、こうすることによって私どもの開発品だけではなくて、併せて海外に進出される企業の方々との共通性が増しますので、動きやすくなるというようなことで動いているところでございます。

それから、技術情報の獲得でございますけれども、これは試験によってこれまで得なかった、知らなかったというか、取り得なかった情報を得たりとか、それから人工衛星等の運用で得られた知見などを集結することによりまして、設計標準を最新化してございます。これを活用することで、人工衛星等の設計の技術の向上を図っているところでございます。

こちらでも御議論いただきましたけれども、基本思想ですとか、基準に当たる部分というのは、英文も含めて公開を進めているところでありまして、逆にノウハウに当たる部分というのは関係者のみで共有できるようにということで、中身の評価を企業の皆さんとどこまで出すかというところは相談をして進めているところであります。

併せまして、海外の宇宙機関との連携も進んでおりまして、それぞれの持つ要求を比較するなどして、その差異を機関間で共有することによりまして、国際共同プロジェクトの進捗で、いろいろ状況認識のすれ違いなどを最小限にするようなことで進んでまいりました。

以上です。

【高橋部会長】 ありがとうございます。

では、ただいまの3項目につきまして、御意見がありましたらお願いいたします。

藤本委員、どうぞ。

【藤本専門委員】 不具合情報の共有はとても大事なことで、素晴らしい取り組みだと思います。皆さん、自分の情報は出したくないけれども、人の情報は欲しいというのが常

で、よい考えでも、実行に移すのは本当に難しいのですが、何か特に工夫された点があればお話しいただければと思います。

【JAXA（武内）】 おっしゃるようなところでありまして、ですので、私たちが企業の方とつき合っている中で、最初に我々が全体的な、今回ですとコネクタのものを分布をして、こういう問題があるというのを先に出しました。そうすることによって、企業の方々が、余り自分では言わないんですが、最初の頃は、どうしても、いや、私は自分のところはちゃんとやりますからということなんですけれども、それが全体像として見えることによって、企業の方々は自分が経験していない不具合も見えてくるわけで、そうすると、自分がちゃんと言うと、ほかのところもちゃんと教えてもらえるというようなところで、そこは意識しました。そのために私どもも副理事長を参加させて、企業の方々に、我々がちゃんとやるというのを宣言した上で進めました。

【藤本専門委員】 ありがとうございます。

【高橋部会長】 ほか、ございますか。

平野委員どうぞ。

【平野臨時委員】 今回の管理系全般について、さっきのオールB問題にも絡むのですが、先ほど、説明者のお一方がベンチマークというお話をおっしゃいました。けれども、文書を読んでいると、そっちこっちで情報交換を図りとか書かれています。ベンチマークというものをこうした管理系の仕事の水準を測定したり、改善する目標を設けたりするために体系的に使っていくことが重要ではないでしょうか。その場合には、どういうところとベンチマークをし、どうやって水準設定をしていくのかという、これ自体が1つの組織の重要な営みになると思いますけれども、その辺の考え方とか、今の取組について、少し御説明いただければと思います。

ベンチマークがはっきりすれば、余計評価も客観性が出てくるということだとは思いますが。

【JAXA（山浦）】 御指摘ありがとうございます。非常に我々、難しいと思います。が、しかし、実は今、宇宙機関が直面している問題が、日本とヨーロッパは極めて近いです。つまり、アメリカのIT長者が興した民間企業が、いろいろな概念をどんどん破壊している。一方で、日本とヨーロッパは、発展途上国の参入においてビジネスチャンスがある。しかも、国費を投入するのがどの部分であるか、済みません、前置きが長くなりました。共有している課題が実に近いですので、今、平野先生がおっしゃったところは、恐らくそうい

ったところを話し合える相手はいると思います。

ただ、ベンチマークの置き方が非常に難しいのは、宇宙だけ見てはいけませんし、我々の抱えるような誰もやったことのないところにチャレンジする、そういう組織の運営において、どうすべきかというのは、もうお答えをこれから勉強するしかないので、そういう意識を持って、どのようなところをターゲットにして、それで作り上げていくかということかと思えます。

【平野臨時委員】 企業においても、事業部門はそれぞれの会社の戦略とか、いろいろなやり方の工夫があるところなどは、なかなかベンチマークは難しいのですが、管理部門というのは、業種や業態も超えて大体人事なら人事、品証なら品証、経理なら経理ということをやっている業務はかなり類似してくるので、ベンチマークしやすい領域ではあるんですよね。ですので、その辺のところを民間の数値なども参考にしながらやっていただけるといいかなという、そういうことです。

【JAXA（山浦）】 ありがとうございます。

【高橋部会長】 では、白坂委員どうぞ。

【白坂臨時委員】 どちらかという、質問ではなく、業界関係者としてエールを込めたコメントなのですが。先ほど、仕組みとしては、このイノベーション創出に向けてイノベーションハブを作られたり、外部連携をされてきたとありました。これから研究開発法人としてJAXAが難しいなと思うのは、新しいことを始めなければいけない。でも、プロジェクトはきちんと成果を出さなければいけない。目標が定められたものをきちんとやる仕組みと、新しいものを生み出す仕組みは基本的にはマネジメントを分けないといけないと言われています。両方、それをしっかり回そうとしたときに、この人事のところを見ると、やはりちゃんと回せる人材と、新しいところを生み出す人材の両方が必要となってきます。現在の仕組みをみたところ、まだ正直イノベーションフェロー制度ということしかないと見えます。

というのは、基本的には、やっぱりまだ新しいことをどんどん生み出すことに対する育成がやっぱりもうちょっと必要になってくるのだろうなと感じました。これから多分どんどん必要になってくるだろうなと思います。そうすると今度は、安全・信頼性の方にかかわってきて、もちろん安全・信頼性は今すごくJAXAさんは世界的に見ても高いと思っていますが、新しいことを試すときには、御存じのとおり、やっぱり失敗がつきものになってくる。じゃあ、それをどの段階で失敗させるかというマネジメントがまた必要になってく

るといふことで、最近、二階建てとよく言われていますが、すごくしっかり動かすところ
と、小さい失敗、致命的にならない失敗を許容しながら、試していきながら育てていく、
新しいものを生み出していくというところのアンドを多分これから先、模索しながら作り
上げていかれるのだろうなと思っています。今、それを始められ、次のレベルに移ってい
く段階にあるなというのが、世の中の流れから見ても近いので、是非、大変だとは思
うのですが、その2つの現実、特に新しいことだけやればいいのではなくて、やっぱりし
っかりとあの巨大な仕組みを、システムを作り上げていくというのとの連立はすごく大
変だと思いますが、是非頑張ってくださいという、エールのコメントになります。よろ
しくお願いします。

【JAXA（川端）】 どうもありがとうございます。

イノベーションフェローもそういう斬新な仕組みですけれども、今、組織改革の方
も、輸送とか衛星の部門の中に研究開発が一部入っていたりすることを抜いて、研
究開発だけで1つの本部にして自立的にやるというふうにしましたので、そうい
ったところの成果が出てくる一方で、プロジェクトはしっかりやるという、そ
ういふ仕組みには今回したんです。頑張ります。

【白坂臨時委員】 よろしくお願いします。

【高橋部会長】 ほか、よろしいでしょうか。

1つ、私から文科省への要望なんですけれども、今度、新しい宇宙基本計画が
制定されましたね。10年後、20年後ぐらいまでの工程表まで出てきて、非
常に緻密なプロジェクトが見えるようになった。それを見ていると、本当に
今のJAXAのリソースであれだけのプロジェクトをこなしていけるの
だろうかと心配です。この人事の人材育成にも関係するんですが、10年、
20年先のプロジェクトまで全てやり切っていこうとすると、特に人的リ
ソースが大丈夫か疑問です。今いる人たちの人材育成は、それはそれでやる
必要がある。しかし、これからのことを考えてみると、JAXAも含めた宇宙
に関わる組織体のリソース増強を今からしていかないと間に合わないの
ではないのかなという感じがしますが、これは、文科省、どうですか。

【千原課長】 会長、御指摘ありがとうございます。

今、人的マンパワーのお話でしたが、実は予算の方もたくさんいろいろ工程表に
書いていただいて、逆にそれをてこに我々はそれを達成するためにということで、
手短には財務省との調整とか、そういうことが必要になってくると思
います。マンパワーの方も同じか

と思っています。そのところはよく長期予見性を立てるがためにああいう計画を立てていただいたと思いますので、逆にそれを見ながら、よくあれをちゃんと執行できるような手立てで頑張れるように、今はちょっと意図表明しかできませんが、しっかりやっていくということしか言えませんが、それに沿ってやっていくべく、文科省としても予算とか人的配置とか、そういうことを頑張っていきたいというふうに思います。ありがとうございます。

【高橋部会長】 是非、今から主体的に、予算も含めて人的なリソースの確保をお願いしたいと思います。

【梅比良部会長】 よろしいですか。私も似たような話ですが、ただ、そうは言っても、国の財政も非常に厳しいわけで、是非JAXAには、稼げるJAXAになってほしいと常々思っております。宇宙の技術がいろいろな産業に波及して国力の増強につながっていくというのが、国がR&Dをやっている使命だと思うのですけれども、そのときに税金をとにかく多く使わせてくださいというのは、もうなかなか難しい。そうすると、やはりJAXAの中でいかに稼いで、技術を外に出すか。逆に言えば、外に出せるということが、結局そういうものを回すことになるので、是非そういう格好で考えていってほしいと思います。これは私の個人的な希望ですが、是非よろしく願いいたします。

【JAXA（山浦）】 非常に口幅ったい申し上げようにはなりますが、宇宙関連企業の皆さんとそういうところをどのようにお互いやっていくかということも併せての構造的な部分を含めて、我々も頑張りたいと思います。

【梅比良部会長】 ええ、そうだと思います。JAXAが最終的なところをやるというのは、逆に難しい部分もあるので、やはり民間企業に表に立っていただいて、オールジャパンではないですが、是非そうなるように期待しております。

【JAXA（山浦）】 ありがとうございます。

【高橋部会長】 ありがとうございました。

（4）平成26年度財務諸表について

【高橋部会長】 それでは、次のテーマ、平成26年度の財政諸表等について、JAXAより御説明をお願いいたします。

【JAXA（成島）】 財務部長、成島と申します。よろしく願いいたします。

お手元の資料の番号3番、平成26年度決算の概要を使用しまして、資料番号4番の財務諸表、その中にあります決算報告書について御説明いたします。

まず、お手元の資料番号3番、決算の概要をごらんください。財務諸表のうち、最初にJAXAの財政状態を示します貸借対照表についての概要を説明いたします。右下のページ、2ページをお開けください。

このページの左側です、資産の部につきまして、平成26年度末の資産合計は、下の欄ですけれども、6,243億円となっております。対前年度比43億円の減となっております。これは建設仮勘定から人工衛星の振りかえ処理がありましたけれども、減価償却に伴う有形固定資産の減少をしたことが主な減少の要因でございます。

右側の債務の部につきまして、流動負債と固定負債の合計ですけれども、4,140億円ということで、対前年度末比242億円の増となります。これは負債ですけれども、この固定負債の主な要因としては、ISS未履行債務が増加したことが主な要因でございます。

純資産の部につきまして、平成26年度末の資本金は、5,443億円ということで、昨年度に変更はありません、同額となっております。

資本剰余金ですけれども、平成26年度末、3,077億円ということで、この中で損益外減価償却累計額が2,814億円となっております。

繰越欠損金ですけれども、前年度からの繰越欠損金169億円と、当期の総損失94億円との合計額263億円が次年度への繰越欠損金となっております。

次のページ、3ページをごらんください。こちらは平成26年度の主な人工衛星の会計処理を記載しております。

人工衛星として計上するのは、耐用年数が1年以上のものを計上しておりますけれども、耐用年数は、設計あるいは目標寿命から定常運用移行までの期間を差し引いた期間を耐用年数としておりまして、この表の一番下から4番目です、小型探査ローバ（MINERVA2）とありますけれども、こちらの耐用が3日間ということで、1年未満ですので、費用化処理を行っております。

また、下2行、情報収集衛星ですけれども、こちらは政府からの受託契約でありまして、委託者に引き渡すため、JAXAの資産とはならず費用化処理を行いました。

次に、資料4ページをごらんください。こちらは人工衛星の内訳を記載しております。

下の方にALOS-2とか、はやぶさ2が新たに資産として取得になりました関係で、人工衛星の残高が1,598億円ということで、前年度末と比べて136億円の増額となっております。

こちらは人工衛星の内訳です。

次、資料5ページをごらんください。これは航空機の内訳を記載しております。

表の2番目の次世代運航システム（DREAMS）技術実証用航空機ですけれども、こちらは耐用年数5年を過ぎていまして、帳簿価格が1円ですけれども、これは重要な財産、航空機ということで、文部科学大臣の認可を得まして、今年の平成27年4月1日付で民間業者に売買契約を結びました。5月11日に所有権移転登録が完了しています。税込みで大体1,250万円で売却したというものであります。

次に、JAXAの業務運営状況を示します損益計算書について、次の6ページをごらんください。

こちらは平成26年度の経常費用は2,293億円となりまして、前年度比221億円の増となっております。これは国からのIGSの受託費が増えたことが主な内容になっております。

また、この経常費用をまかないます財源として経常収益というふうに計上されていますけれども、運営費交付金収益とか、受託収入、補助金等の収益などがありまして、平成26年度は2,199億円の収入がありましたけれども、対前年度比220億円の増、これもやはり国からの受託収入が増えたことが内容になっております。

ただ、経常費用と、それをまかなう経常収益との差額が94億円出ておりまして、これが当期の損失です。経常費用の方が上回っていますので経常損失になっております。

さらに、臨時損失、臨時利益、法人税等の増減がありますけれども、最終的には94億円の当期総損失となっております。

当期総損失については、資料、次のページ、7ページをごらんください。

こちらでJAXA設立時の旧法人から承継しました資産を費用化によるものが1億円、これは1番の(1)、資産のところになりますけれども、ここで1億円、あと、収益と費用との期ずれ、時期、年度のずれがありますけれども、これによって93億円になっております。独立行政法人の会計基準に従った結果、損失になっておりますけれども、これは運営上の問題ではなく、キャッシュで補填するという性格のものでもなくて、今後、事業運営での資金繰りなど財務体質には影響はありません。

次に、資料8ページ、こちらはキャッシュ・フロー計算書ということで、一会計期間の資金収支を表しています。業務、投資、財務という活動区分によって表示しておりまして、左下の631億円が先ほどの貸借対照表の現金及び預金の欄の額に一致するようになっていきます。

続きまして、資料9ページをごらんください。こちらは行政サービス実施コスト計算書ということで、独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコストを表示するものです。平成26年度、JAXAの国民負担は1,971億円となっております。

次、資料10ページをごらんください。こちらは平成26年度の財務諸表の中で注記事項を入れておりまして、その中の主なものをこちらに表しております。

注記事項2番の会計上の見積りの変更というところで、JEM関連オフセットにおける会計処理。注記事項6番の重要な後発事象ということで、厚生年金基金の代行部分返上ということ注記事項として記載しております。

次に、平成26年度のJAXAの一切の収入と支出の実績を示します決算報告書の概要について御説明します。資料の12ページ、13ページをごらんください。

これらの中で予算額1、決算額2、1から2を引いた差額の欄、これが決算報告書の本来の記載内容になっておりますけれども、この表には前年度からの繰越の欄、予算現額の欄、予算現額と決算額の差額の欄を新たに設けております。

最後のページ、13ページをごらんください。この表の一番下の左側ですけれども、区分の計がありまして、予算額が2,211億9,000万円、前年度からの繰越額が445億9,000万円、予算現額が2,657億8,000万円、決算額が2,078億6,000万円、差額が133億3,000万円、予算現額と決算の差額が579億2,000万円、この579億2,000万円の中で538億2,000万円が、翌年度、平成27年度への繰越額になっております。

以上、簡単でございますけれども、平成26年度の決算の概要の説明を終わります。ありがとうございました。

【高橋部会長】 ありがとうございました。

ただいまの御説明に対して、御意見がありましたら、お願いいたします。

よろしいでしょうか。

(5) 宇宙航空研究開発機構監事からの監査報告書説明

【高橋部会長】 それでは、引き続き、監事からの監査報告につきまして、JAXAよりお願いいたします。

【JAXA（城野）】 それでは、資料5の監事監査報告書をごらんください。

JAXAには、常勤の監事が2名おりまして、私は城野と申しますが、代表して私から報告い

たします。

この監事監査報告書は、既に財務諸表とともに主務大臣の方に提出をされております。

2ページ目が結果でございます。監事の監査は2つありまして、1つは業務監査、もう1つは会計監査です。

業務監査の1番目は、適法性と効率性でございますが、これを見て、適正に、また効率的に実施されておる。

それから2番目が、今年度から独立行政法人通則法に内部統制体制の整備が義務付けられました。これに伴う業務方法書、民間でいいますと定款でございますけれども、これの改正及び関連する諸規定の整備が適切に実施された。

それから、内部統制システムに関する理事長の職務の執行については、重要な事項は認められなかった。

もちろん役員の職務の執行に対する不正、それから法令に対する違反はございませんでした。

会計監査の結果は、会計監査人はトーマツでございますけれども、この監査の方法及び結果は相当である。

それから、事業報告書は、機構の状況を正しく示しておる。

財務諸表、決算報告書は、適正であるというのが監査の結果で、問題はございませんでした。

簡単に、どういう観点で監査したかを3ページ以降に書いております。

まず1、監査の進め方でございますが、これは通常の監査役と同じように、資料の閲覧、会議への出席、それから事業所及び各部門長との会談というようなことを通じて監査を行いました。

それから3ページの一番下の方に、平成26年度の監査活動を詳しく書いておりますが、まず重点監査でございますけれども、4ページの冒頭に、重点監査事項を、「内部統制システムの状況」といたしました。先ほど申し上げましたように、独法通則法が改正されまして、会社法と同様の内部統制システムの構築義務が役員の義務として定められました。これに基づいて、業務方法書の改訂、それから内部統制実施指針の新設、関連する内部規程等の改訂が順次取り組まれて、3月の年度内に全て完了したということを確認しました。

同様に、監事の機能強化、調査権限であるとか、それから監事へのいろいろな職員の報告義務、こういうものが盛り込まれましたので、それに合わせた監事監査諸規定の改訂も

同時に行いました。

その過程で、監事は検討過程に積極的に参画をして、結果的には整備された内部統制システムは、既存の会議体を内部統制体制の観点から定義し直すということで、有効な体制が構築されたというふうに判断をしております。

ちなみに、今年度、平成27年度は、今度は運用、整備が終わったので、運用が適切かどうかを見ていこうという計画にしております。

それから、経常監査のアのところ、監事の視点といいますか、監事が主に理事長及び経営者をどういう観点から見ておるかということなんですけれども、理事会議、役員説明、プロジェクト経営審査等々、いろいろな諸会議がございまして、理事長が出席する会議はほとんど監事も出席をしております。その中で、業務の状況や課題が経営者に適切に報告され、的確に対処されているか。情報の上下の風通し、それから法令等に基づきもちろん問題がないかどうか、あるいは、必要な場合は専門家の意見を聞いているかどうか、それから理事者の意思決定が合理的にされておるか、それから独法通則法改革に関する閣議決定等、いろいろな答申が出ていますので、それが着実に実行されておるかということを確認いたしました。

それから、内部統制に関しては、もちろんリスクマネジメントのPDCA、コンプライアンス違反防止体制、経営方針の組織の隅々への必達、それから不正アクセス等の顕在化したリスクがちゃんと対応が行われておるかということを留意して見てまいりました。

以下、主な事業所への往査、それから主要な組織部門長とのミーティング、そういうものを4ページの下に書いております。

5ページ以降は、特に契約の適正性、これに関しては監事もかなりのエネルギーを割いております、まず契約監視委員会が設けられておりまして、これは外部委員の方4名を含む委員会でございますけれども、ここでJAXAが行う契約の適正性をチェックしていただいております。

それから、実際の高額の契約伝票の回付を受けて、必要な場合は質問しておく。

それから、契約審査委員会という内部の組織がございまして、これの報告を毎週受けて、必要な場合は質問しておくというようなことをやっております。

財務諸表は、先ほど申しましたように、財務部から月次決算の内容の説明を受けて、毎月チェックしておく。

会計監査人につきましては、会計監査法人内部の品質管理体制、それから審査体制、こ

れが適正であるかどうか。会計監査は主に会計監査人に依拠しておりますので、監査の方法そのものの相当性を判断しております。

それから、内部監査部門、JAXAの内部監査部門と常にミーティングをしながら連携をしておることが監査の方法でございます。

それから一番最後に、監査を行いました監事監査活動の実績を一覧表として添付しております。

以上です。

【高橋部会長】 ありがとうございます。

ただいまの監査結果につきまして、御意見ありましたら、お願いいたします。

よろしいでしょうか。

それでは、以上で本日のヒアリングを全て終了いたしました。

(6) その他

【高橋部会長】 それでは、最後に事務局より事務連絡をお願いいたします。

【後藤推進官】 机上配付資料2-1の御意見記入用シートにつきまして、御説明いたします。

こちらは、机上配付資料1-1を踏まえて御記入いただきまして、メール等で御提出をお願いいたします。

御意見記入用シートの電子データは、本日、総務省の委員のみなさまには、事務局から午後一で御送付しておりますので、御確認ください。

本日分の御意見記入用シートの御提出は、期限が短くて恐縮でございますが、今週の金曜日、7月17日の15時までをお願いいたします。

なお、評価を行う上で必要な御質問、追加資料の御依頼は、電子メール等にて、明日18時までに事務局まで御連絡ください。回答の作成には時間が掛かる場合がございますので、複数回に分けて出していただいても構いませんので、お早めに御依頼くださいますようお願いいたします。

それから、資料2のJAXAの業務実績等報告書は、お持ち帰りください。参考資料がとじ込んであります資料につきましては、次回以降も使用いたしますので、お持ち帰りにならないようお願いいたします。

次回の総務省JAXA部会は、7月24日、再来週の金曜日、14時から、総務省8階第1特別会議室にて開催いたしますので、御出席のほど、よろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

【多賀谷課長補佐】 文科省JAXA部会の方々に御連絡いたします。

御意見記入用シートは、机上配付資料2-2になります。こちらは総務省JAXA部会の方々と締め切りが違いまして、7月21日火曜日の15時までにはお願いできればと思います。

また、追加の質問ですとか、追加資料につきましては、総務省JAXA部会の方々と同じように、明日の18時ぐらいまでに、もしあれば、事務局までお申し付けいただければと思います。先ほども話がありましたが、回答の作成には時間が掛かる場合がございますので、複数回に分けて出していただいても結構です。

また、先ほど総務省の方からお話がありましており、机上の緑のファイルにつきましては、次回以降も使いますので、そのままにしておいていただけますようお願いいたします。

次回の文科省JAXA部会に関しましては、8月4日火曜日の15時から、18階の局第1会議室で開催いたしますので、御出席のほど、よろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。以上です。

閉 会

【高橋部会長】 以上をもちまして、第3回総務省JAXA部会、第2回文部科学省JAXA部会の合同部会を閉会したいと思います。

長時間の御対応、大変ありがとうございました。

以上